

図14. 東北地方中央部，2003 年宮城県北部地震震源域で得られた地震波減衰 ( $Q_s$ ) 構造の東西断面。黒点・白丸は，東北地方太平洋沖地震発生前及び後に発生した地震である。▲は火山を示す。赤丸は低周波地震 (LFE) を示す。赤太線はS 波反射面 (堀・他，2004) を示す (東北大学 [課題番号：1207] )。

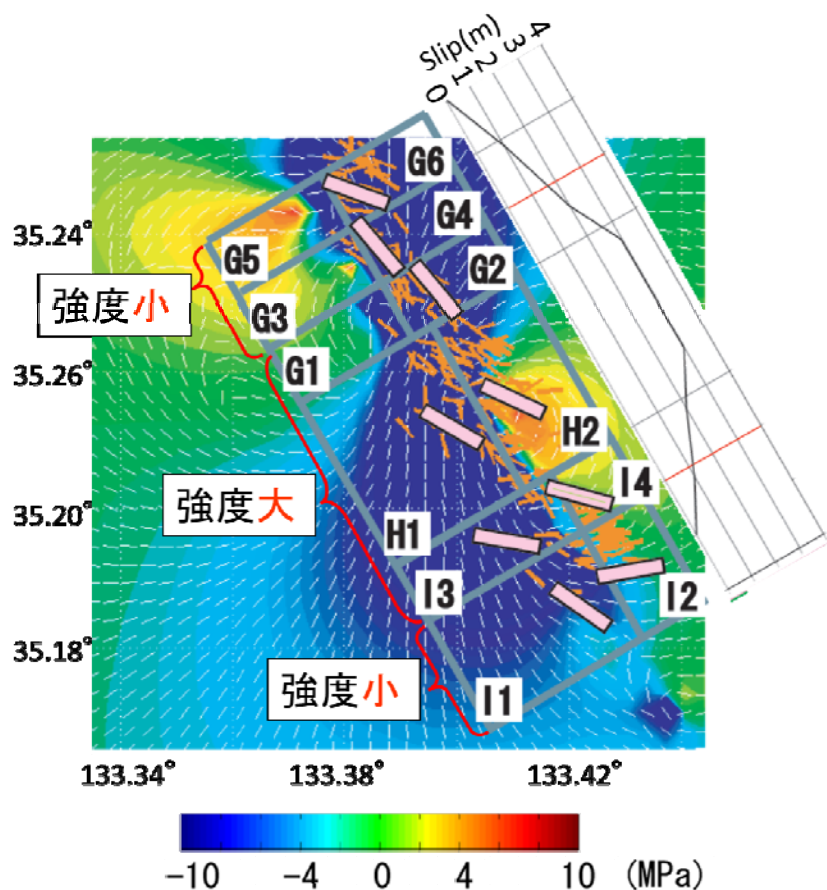


図15. 応力逆解析によって推定された，鳥取県西部地震の大滑り域近傍 (深さ5-10km) における  $\sigma_1$  の方位分布 (ピンクの太線)。深さ7km における本震による静的応力の空間変化 (白細線) と比較している。オレンジ線は同じ深さにおけるP 軸の方位分布。滑り分布は岩田・関口 (2002) による (京都大学防災研究所 [課題番号：1808] )。

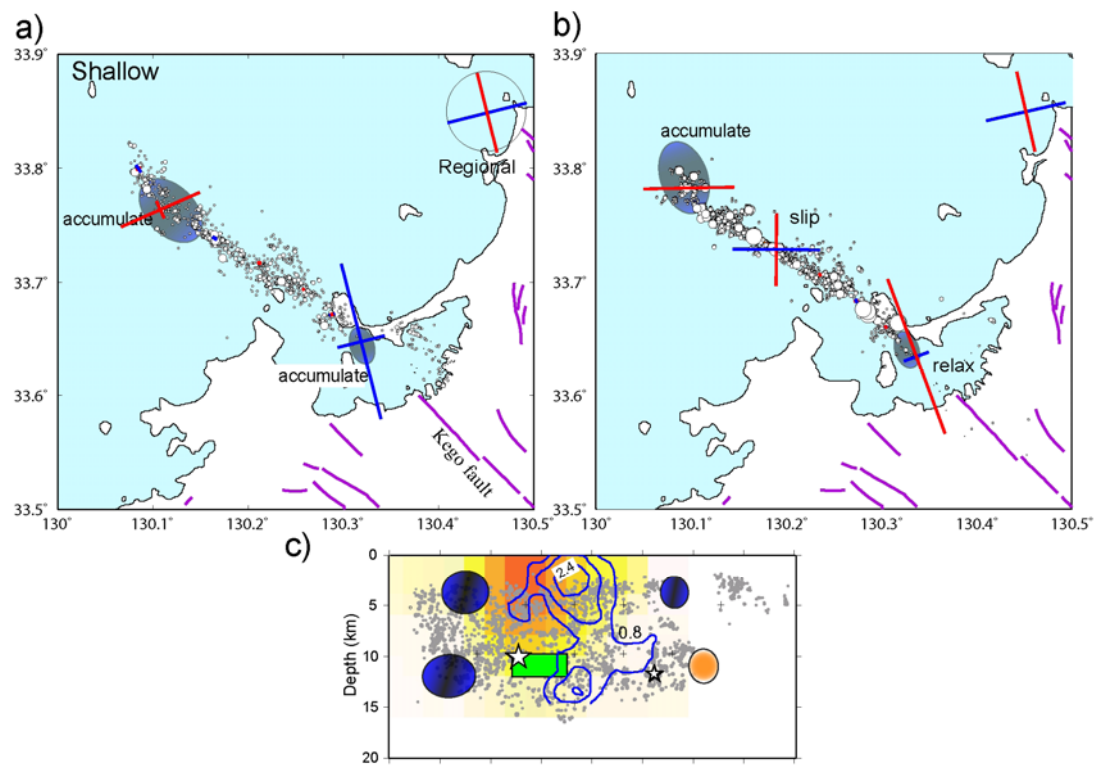


図16. 発震機構解から求められた広域応力と非弾性変形と等価なモーメント (Matsumoto et al., 2012)。モーメントの赤，青線は伸張，圧縮力源を示す。a), b) はそれぞれ7.5km より浅部，以深の結果を示す。c) は断層に沿った断面図。青丸は応力集中，橙丸は緩和を表している。緑は断層滑りの位置。黄色のカラーはGPSによる滑り分布 (Nishimura et al., 2006) とAsano & Iwata (2006) による強震データを用いた滑り分布 (九州大学 [課題番号: 2303]) 。